

まるい校舎

加古川市立川西小学校

校長室だより 第18号

令和6年1月17日

「ひょうご安全の日 1.17」

阪神・淡路大震災の経験と教訓を継承し、安心な社会づくりを期する日です。



地震避難訓練を実施 (1/17)

緊急地震速報（テスト配信）が流れて地震避難訓練が始まりました。「5, 4, 3, 2,・・・」と地震速報のアナウンスが流れる中、各教室では、子どもたちが机の下にもぐって命を守る姿勢をとります。

しばらくして揺れが収まった想定で、教職員が校内の通路などの安全確認を行います。教職員から集まった情報を元に、今回は南北校舎を繋ぐ渡り廊下と新館と北校舎を繋ぐ通路が使えなくなっていると仮定して、できるだけ安全なコースを通るように避難指示が出されました。



避難指示の後すぐに、子どもたちが避難を始めます。今回は、これまでの避難訓練で避難経路となっていた出入口が使えないため、非常扉や運動場に面した教具室から避難するクラスもありました。

どのクラスも真剣な表情で避難訓練に取り組み、素早く静かに体育倉庫前に集合できました。

体育倉庫前に集合した後、29年前に阪神・淡路大震災で犠牲になった多くの方々に対して、1分間の黙祷を行いました。各クラスで行った事前指導で「黙祷」の仕方と意味を学習しているため、穏やかで心のこもった1分間でした。

講評の中で、「阪神・淡路大震災を機に、地震で倒れにくい建物などの研究が進んだ一方で、地震を予測したり防いだりすることは未だにできないこと」「地震は他人事ではなく、加古川でも必ず地震が起きるであろうこと」「いつ起きるか分からない地震に対して、自分の命を守るために備えておくことが大事で、今日の避難訓練も地震に備えるための訓練であること」などを話しました。



災害に遭わず普段通りの生活ができていることは有り難いことです。子どもたちには、あたりまえの生活に感謝しながら毎日をしっかり過ごしてほしいと思います。また、災害に対する「備え」としての知識や経験を重ねて、子どもたちが大きな災害に出会った時に、自分や自分が守るべき命を守れるようになってほしいと思います。